児童発達支援センター くるみ園

令和7年度

発達支援 計画
支援プログラム

そだち

社会福祉法人 福角会
多機能型事業所
くるみ園

愛媛県松山市福角町1285-1

TEL (089) 979-5026

FAX (089) 979-5027

メール kurumien@poem.ocn.ne.jp

令和7年4月1日作成

社会福祉法人 福角会 法人理念

社会福祉法人福角会は「この子らを世の光に」の心を心として、全ての人たちが地域の中で安全で安心して暮らせる豊かな生活の実現を目指します。

豊かな育ちと生き抜く力を支援します

家庭、地域のことを考えながら子ども達の育ちを支援します

発達支援（そだち）

クラス活動・グループ活動

個別支援・合同保育・合同遊戯

季節を通しての行事

コミュニケーション能力を高め生活、あそびの中で力を発揮できるように支援します

家庭（子育て）

母子プレー・個別支援計画

参観日、懇談会、おもちゃづくり

父母の会研修

子育てを共に、考えます

地域（つながり）

地域移行支援

随時発達相談

療育等支援事業

保育所等訪問支援事業

交流保育や交流行事

地域で暮らすことを考え連携します
保育園・幼稚園・学校、関係機関等

発達支援計画

1 目的

児童発達支援センターくるみ園は、地域の中核的な児童発達支援センターとして、個別・集団活動及び相談を通じて、発達支援の連続性、継続性が重要であることを重視し、関係者の理解を得ながら子どもの生き抜く力を支援する。併せて、地域支援（療育等支援事業や保育所等訪問支援事業）を展開し、個別支援計画を基本としながら、発達に「困り感」を抱える全ての子どもたちが集団生活に適応する力を育てる。これらの取り組みを通して、地域の子どもの福祉の増進に寄与する。

発達支援にあたっては、下記の4点を基本としている。

- (1) 一人一人の子どもの発達をとらえ、個々に応じた支援を提供する。
- (2) 子どもが、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするためにも、心身の健康や生活に関する領域「健康・生活」、運動や感覚に関する領域「運動・感覚」、認知と行動に関する領域「認知・行動」、言語・コミュニケーションの獲得に関する領域「言語・コミュニケーション」、人との関りに関する領域「人間関係・社会性」の5領域を基盤とした保育を行うことを基本とする。
- (3) 「保育園併設」を活かし、子どもの「そだつ力」を高める。また、子どもの発達状況や家族の意向を丁寧にアセスメントし、地域において保育・教育が受けられるように保育所等へ支援を行う「後方支援」を行いながらインクルーシブに向けた基礎作りをする。
- (4) 子どもの発達に関する全てを対象として発達相談を行う。

2 発達支援方針

(1) 発達支援

一人一人の発達や状態を把握して、個別支援計画を作成する。これを基に、定期的に見直しをしながら実践し、その子どもに適した将来の環境（保育園、幼稚園、学校を含む）も考慮しながら支援を行う。

(2) 共に育ちあう

保育園児とのあそびや放課後等デイサービスみらいとの交流などを通して、子どもの成長・発達を支援する。

また、保護者と職員とが一緒に子育てを考え協力し、共に育ちあうという姿勢をもって子どもの発達につなげる。

(3) 発達支援の柱としていること

発達支援を必要とする子どもに対して、『感覚運動あそび』『インリアルアプローチ』『感覚と運動の高次化理論』を中心に支援を実施する。

3 営業時間

午前 8 時 20 分～午後 5 時 20 分

サービス提供時間

午前 10 時 00 分～午後 3 時 00 分

水曜日及び土曜日について

午前 10 時 00 分～午後 1 時 30 分

4 送迎方法

通園バスが利用できます

5 努力目標

- (1) 子ども達が生まれもつ「生きる力」を信じ、その力を引きだしていく環境の設定と支援システムを構築していく。
- (2) 発達検査などを通して、子ども達の能力をさまざまな角度から捉え、個々にあった支援の実施につなげる。「津守・稲毛式乳幼児発達検査」「新版 K 式発達検査」等の検査を実施する。
- (3) 環境を整備すると共に、教材教具を工夫開発して支援効果を高めていく。
- (4) 専門家としての支援を展開するために、園内研修を年間計画に基づいて行いスキルアップを図る。
- (5) 家庭と連絡を取り合い、共に子どもの正しい理解と認識を深め一貫性のある支援を行う。必要、希望に応じて親子通園、家庭訪問を随時行う。
- (6) 職員が講師となり、保護者対象の学習会を実施して側面的に家庭を支援する。
- (7) 関係機関（保育園、幼稚園、特別支援学校、小学校、医療機関など）との連絡・情報の交換を行い、地域社会につなげる。
- (8) 安全に対する学習と体験の機会を整備します。定期的に交通安全教室、避難訓練、交通避難訓練、救命救急講座などを実施して、生命、安全の確保に備える体制を検証していく。
- (9) 利用者の個人情報の保護と開示を行う。
外部流出には細心の注意を払い、特にパソコンのデータ管理には万全を期す。
- (10) 父母の会（保護者）と協力し合い、将来を見通した子育てを考える機会となるように進める。

6 重点支援項目

(1) 保育を基盤とした発達支援の実践

発達支援は子どもの生活の部分を支援することが重要と提起されている。特定の支援プログラムに特化することなく、5領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を基盤とした発達支援を実践する為に、子どもを楽しませることのできる保育スキルを身に着ける努力をする。その為に、内部研修の充実を行う。

令和7年度 内部研修計画

時期	研修名
4月	個別支援計画研修（スキルアップ研修） 感染症対策研修、身体拘束研修 児童発達支援センターの役割について（スキルアップ研修） クラス・グループの話し合い（チームワーク研修）
5月	クラスビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループの話し合い（チームワーク研修）
6月	グループビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループの話し合い（チームワーク研修） 虐待防止研修
7月	グループビデオ研修（スキルアップ研修） 移行会議（インクルージョン研修）
8月	学期のまとめ （教材づくり、合同保育、合同遊戯、教材づくり）
9月	クラス前期まとめ（スキルアップ研修） グループ前期まとめ（スキルアップ研修） クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
10月	クラス・グループ話し合い（チームワーク研修） 虐待防止研修
11月	個別ビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
12月	クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
1月	クラスビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
2月	クラスビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
3月	クラス後期まとめ（スキルアップ研修） グループ後期まとめ（スキルアップ研修） 学期のまとめ（スキルアップ研修） （教材づくり、合同保育、合同遊戯、教材づくり）

身体拘束見直しに関しては3か月に1回の見直し

BCP 計画（感染症及び非常災害時）演習及び研修は年2回開催

(2) 子どもの意思表明を尊重した保育を行う

どんなに重い障害があっても、自分でしたいことを自分で決めたり選んだりすることは可能である。自分の意見を述べることは難しくても、選ぶことは小さい頃からの積み重ねにより身に付けることが出来る。まずはコミュニケーションスキルを身に着け子どもを信じ、子どもの主体性を大切にしたり分かりやすい見通しを持った活動を組んでいくことが、児童発達支援には求められている。

- ① 様々な経験を積むこと（経験しないことは分からないし決められない）。
- ② あらゆる場面で「選ぶ」機会が保障されていること（「選ぶ」経験が「決める」ことにつながる）。
- ③ 意見を自由に言え、間違っても否定されずに聴いてもらえること（「意思表明権」）。

「意思決定」のベースを作るには、幼少期からこれらのことが生活や遊びの中で意図して取り込まなければならない。大人になって、自分の意思の下生活が送れるようになるためにも、日々の発達支援の現場で行われる保育の視点によるあそびを通し、「自分で決めて、自分で選ぶ力」に結びつく発達支援を実践したい。

(3) 家族支援について

児童発達支援における家族支援は、保護者の就労保障や家庭養育の補完を目的として行われるものではない。本来の目的は、子どもが最大限に成長・発達できるようその基盤となる家庭生活や親子関係を支援するものであり、子どもを中心においた家族支援であることを理解しなければならない。保護者が子どものことを心から愛おしいと思え、様々な発達課題をエンパワメントの視点を持って支援することが大切である。くるみ園では子育ての主人公は「保護者である」ということを基盤としながら、「子どもの最善の利益」に繋がるように導く為に、事業所内相談支援に力を注ぎたい。

(4) 地域の中核的機能の拠点施設として

児童発達支援センターの中核機能

- ① 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援の機能
- ② 地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能
- ③ 地域のインクルージョン推進の機能
- ④ 地域の発達支援に関する入り口としての相談機能

4つの中核機能すべてを十分に備えるセンターとして、地域から求められる児童発達支援センターを目指す。その為には、療育等支援事業及び保育所等訪問支援事業を介した地域への後方支援の機能をより一層強化する。また、障害の発見段階の子ども及び保護者に対する相談支援機能を強化すべく、障害児相談支援が、発見の段階から丁寧な発達相談が担えるよう、入り口の相談支援の強化を行う。また、松山市に設置されている子ども家庭センターとの連携を図りながら、乳幼児健診後の発見の段階の母子への介入を子ども家庭センターと連動しながら丁寧な入り口支援に力を注ぎたい

7 職員信条

思いやり、相互理解、協力

発達支援（そだち）

8 発達支援目標

- (1) 保育を基盤とした発達支援の展開により、他者とのコミュニケーションスキルを高める。
- (2) 見る、触る、嗅ぐ、食べる、聞く、動く、幼児期だからこそ、様々な感覚を取り込みながら、自我を育てる。
- (3) 障害児相談支援事業所が作成する児童支援利用計画を、個別支援計画に反映させ、個々の発達過程に合わせた支援を実施する。
- (4) 人を頼り、信じる力を育てる。

※ 発達支援の内容については別紙参照

家庭（子育て）

9 母子プレー（家族支援）

月に1回、保護者と子ども、担当職員で実施する。実施時間は1コマ50分。子どもの発達過程に合わせた取り組みを、ポータージプログラムを軸にしながら課題設定をし、あそびを通した中で取り組む。親と子の絆を深め、子育てにおける互いのコミュニケーションスキルを高めていく為の、くるみ園における発達支援の大きな柱としている。くるみ園職員は、保護者の方々の子育てにおけるよきパートナーでもあり、伴走者でもあるという姿勢を大切にしている。

10 親子行事・兄弟支援

親子行事に参加することは、親子関係を確立する機会となる。また、他の子どもとも関わり、様子を見ていく中で、共に育ちを喜び合える場となるように、行事を計画していく。また、父親や兄弟を対象とした行事も考えながら、家族で子育てへの参加を考える機会も設ける。

地域（つながり）

11 発達相談

社会福祉法人福角会は、平成10年10月より国の地域療育等支援事業を受けて、その中の在宅支援外来療育等指導事業（以下外来）、施設支援一般指導事業（以下施設支援）、巡回相談のいわゆる「療育3事業」について、くるみ園が実施してきた。

外来については、在宅のお子さんや、幼稚園・保育園を利用している子ども達を対象に、子ども達1人1人の特性を受け止めながらの支援を大切に、人との関係作りの基礎となる取り組みに重きをおいて実践していく。また、子どもの将来のことや、発達のことによって不安を抱える保護者の方々の立場に立ちながら、個別支援計画を共に立案し、将来を見通した支援につながるよう計画を立てる。作成した個別支援計画は、通っている幼稚園・保育園の先生とも共有し、子ども達が通う園の中においても、一貫性のある支援が継続できるよう活用する。

施設支援では、保育園や幼稚園等の障害児保育のスキルを高めていくことを目標として、実際に保育現場を観察しながら子どもたちの特性理解を促し、又テーマに沿った各種研修会を開催し、職員の発達支援技術の向上を図る。

巡回相談については、在宅の重症心身障害児への発達支援を提供したり、通園する保育園や幼稚園等へ訪問しながら、活動する現場で相談対応を行う。

12 保育所等訪問支援

地域の幼稚園や保育所、学校等に通う、発達上「困り感」を抱える子どもに対し、訪問支援員を派遣して子どもが集団生活へ適応する力を育てるための、専門的な支援を行う。相談支援事業所を介して松山市へ受給者証の申請が必要になるサービスである。

1.3 交流保育

子ども達は、早期発達支援に加え、子ども同士の関係性の中で豊かに育っていく。その中で、喜びを持ち、他者とのかかわりの中で楽しみを見つけ、集団の中での自分を確立していく。従ってくるみ園では、交流保育・合同保育・合同遊戯・小学生との交流会、地域との交流を積極的に行う。

1.4 地域活動

地域との交流や、交通安全、買い物、交通手段の利用の経験は将来の地域活動につながる幼児期における活動として捉え、家庭と連携して年間計画の中で位置付ける。

1.5 おもちゃの図書館

昭和59年、愛媛共同募金会の助成を受けて、くるみ園内におもちゃの図書館を開設する。おもちゃの図書館は、「障害を持つ子どもたちに、おもちゃの持つ素晴らしさと遊びの楽しさを」との願いから始まり、現在では「障害を持つ子ども持たない子ども、共に仲良く、そしてあそびを豊かに」と活動している全国組織の団体である。

園内には、約250点の各種おもちゃがあり、地域の在宅障害児家庭への貸し出しやあそびの場の提供・園児との交流・ボランティアの養成などの活動を行っている。おもちゃは、くるみ園父母の会の手作りおもちゃをはじめ、運動発達を促すおもちゃ、目と手の協応をねらいとしたおもちゃ、認知力（探索と操作）を高めるおもちゃ等を用意している。

開所曜日 : 毎週水曜日

利用時間帯 : 11:30~12:30

注意事項 : 飲食不可

日々の日課

時 間	生活の流れ	職 員 の 動 き	
8:20 8:25	朝礼 職員打ち合わせ バス 出発	園児出欠の確認 バス添乗保育士確認 バス内安全留意確認 清掃 準備 早着児の受け入れ 外来利用児受け入れ	
10:00 :10	バス 帰園 生活	園庭走 健康観察 家庭よりの連絡事項の確認 排泄 着脱	
10:40 11:30 :35	クラス活動 個別支援 お片付け 給食準備	クラス活動計画案に基づく 個別支援計画に基づいて 排泄（必要な子ども）	
11:40 12:20 13:10	給食 生活 自由あそび お片づけ	手洗い 配膳 食事 投薬 歯磨き 食事の後片付け 手洗い・排泄	水・土曜日の流れ 13:00 お片づけ 13:10 生活
13:20 14:10	グループ活動	グループ活動計画に基づく 個別支援計画案に基づいて	13:30 バス 出発 14:00 外来①
14:20	おやつ 生活	手洗い 健康観察 排泄 着脱 園児確認 家庭への連絡事項の確認	大掃除など
15:00 16:00	バス 出発 休憩	バス保育士添乗 清掃 外来利用児受け入れ （月曜日はグループのみ） 準備 記録	15:00 バス 帰園 外来② クラスの話 グループの話 記録整理等
16:45	バス 帰園		16:00 休憩 園内研修 職員会など
16:50 17:20	終礼 研究 終業	報告・反省 明日の行事予定の協議 教材研究 ケース研究	16:50 終礼 17:20 終業

* 隔週火曜日の午後は伊予スイミングにてスイミングを実施

* 毎週金曜日は集団活動と個別支援を実施

りす組

担当 畑本保育士・高野保育士・石丸児童指導員

目指す子どもの姿

子ども達が安心して過ごせる環境を用意し、楽しい・やりたいと思う経験を積むことで、コミュニケーション意欲が豊かに育つ。大人と一対一で関わったり友だち同士で遊び込んだりしていく中で他者への興味関心が高まり、やりとりを楽しめるようになる。また、視覚的に伝えたり一人一人に応じた関わり方をしたりすることで、様々な状況を受け入れられる力が身につく。家庭と園で情報共有を丁寧に行い、親子の愛着を深め、家庭での生活や外出が楽しくなる。

- (健康・生活) 子どもが分かって動ける環境を用意し、家庭と園で連携を図りながら生活リズム(食事・排泄・睡眠)を整える。個々に応じた支援を行い“自分でできた”という達成感から、生活の流れが身に付き、自分でできることを増やしていく。
- (運動・感覚) 大人との信頼関係を築き、リラックスした状態で感覚運動遊びを行い、固有覚や前庭覚、五感を刺激していく。そうすることで受け入れられる感覚が増え、自己刺激行動や触覚防衛反応が和らぎ、筋緊張への刺激にも繋がる(トランポリン、バランスボール、シーツブランコ、手の平・足裏への刺激、呼名タッチとシェイキング等)。→日常の生活動作がスムーズに行えるようになる。
- (認知・行動) 個々に応じたツール(絵カード、写真、実物等)を活用し、提示していくことで認知機能を向上させる。また、好きな遊びや楽しいと思えた遊びから興味関心を広げ、概念理解が深まる。行動面では、大人が見本や媒介となることで活動の幅が広がる。
- (言語・コミュニケーション) 遊びを繰り返すことで「もういっかい」「おねがい」「して」といった要求や意思表示が増える。また、個々に合わせた伝達手段(ジェスチャーやカード、発声等)で伝えることで、コミュニケーション能力が高まる。
- (人間関係・社会性) 遊びの中で、大人との信頼関係を築き、「一緒に遊びたい」「隣にいてほしい」といった他者に対する安心感や興味を引き出す。玩具の取り合いになったり順番を待つ場面では、子ども同士がお互いを意識できるように大人が媒介となる。そうすることで様々な状況を受け入れられるようになる。

氏名	性別	生年月日	CA	備考
	女	R3. 4. 17	3:11	
	女	R3. 5. 18	3:10	
	男	R3. 6. 13	3:9	
	男	R3. 8. 14	3:8	
	男	R3. 9. 10	3:7	
	男	R3. 10. 11	3:6	
	男	R4. 1. 23	3:3	
	男	R4. 2. 11	3:2	
	男	R4. 5. 2	2:11	

うさぎ組

担当 古川保育士・石田保育士・大西保育士

目指す子どもの姿

園生活に慣れ、生活リズムが整う中で視覚的支援を手掛かりにすべきことが分かり、主体的に行動出来るようになる。

色々な遊びの経験を通して成功体験を積むことで、興味関心が広がり「自分でやってみよう」とチャレンジする意欲を育む。また、受け止めてもらえたという経験から自己肯定感を育み、コミュニケーションスキルが高まる。

(健康・生活)

分かりやすい生活の場や道線を設定することで見通しが持て、身の回りのことを自分で行う意欲が育つ。また個々に応じた目標を設定し、「できた」という喜びを大人と一緒に共感することで自信をつけ生活面での自立を促す。

(運動・感覚)

感覚運動遊びを通して、様々な身体の動かし方を身につけ、ボディイメージや企画力等の運動能力を高める。

手先を使う遊びを取り入れたり、繰り返し行ったりすることで手先が器用になり、日常生活においても自分で出来ることが増える。

(認知・行動)

園外活動や遊びの中で、様々な物や色・形などに触れながら物の違いに気付いたり考えたりする事で概念理解が広がる。

友だちや大人の模倣をしたり、時にはお手本となったりしながら、出来ることの幅が広がる。

(言葉・コミュニケーション)

個々に合った伝達手段を活用したり、大人が子どもの気持ちを汲み取ったりすることで「伝わった」という経験を重ね、ジェスチャや言葉で発信しようとする意欲を育む。

スキンシップ遊びや生活の中でのスキンシップを通して、大人との信頼関係が生まれ、コミュニケーション能力が高まる。

(人間関係・社会性)

同じ空間で遊びを行う中で、他児との関わりややりとりを楽しんだり、大人を介して順番待ちや貸し借りをしたりができるようになる。

友だちや大人との遊びを通して人に合わせたり、場面に合わせたりして行動出来るようになる。

氏名	性別	生年月日	CA	備考
	男	R2.6.19	4:9	
	男	R2.7.4	4:8	
	男	R2.7.26	4:8	
	女	R2.9.8	4:6	
	女	R3.2.6	4:1	
	男	R3.5.30	3:11	
	男	R3.7.25	3:8	
	男	R3.8.6	3:8	
	男	R3.9.5	3:6	
	男	R3.11.11	3:4	

こじか組

担当 山西保育士・中山保育士・美濃保育士

目指す子どもの姿

くるみ園で、様々なあそびを経験する中で、大人やお友だちと一緒に過ごすことで、「楽しい」「面白い」等の感情が得られる場面をたくさん経験していく。様々な遊びや行事を通して、自分でしたいことを決めたり、選択する場面を多く設け、子どもたちの個性を活かしていく。また、自分の気持ちが他者に伝えられるよう、各々の発達段階に合ったコミュニケーションが身に付くよう支援する。

(健康・生活) 毎日元気に登園しながら、生活リズムを整えていく。身辺面では、環境の整備を図りながら、個々に合わせた支援をおこない、毎日の繰り返しの中で自分でやろうとする意欲が高まる。

(運動・感覚) 子どもの「やってみたい!」という意欲を引き出しながら、様々な感覚運動遊びの体験を重ね、自分の身体のイメージを育む。運動遊びを通して、自分の運動機能を最大限を活かし、生活の中で動きをコントロールしながら、人に合わせた行動が出来るようになる。

(認知・行動) 個々の発達段階に合わせ、「見る」「聞く」「触る」等のさまざまな遊びを通して、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。また生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことを自分なりに表現できるようになる。

(言語・コミュニケーション)

四季折々のさまざまな活動を経験することで、「楽しいな」「面白いな」「やってみたいな」等の気持ちが芽生えたり、共感しながらあそびを繰り返すことで、大人やお友だちとの関わりが楽しくなる。また、見通しを持って生活するために、コミュニケーションツール(絵カードや文字、音楽等)を活用することで、伝わった経験が充実し、人とのやりとりが楽しくなる。そして、情緒のコントロールが出来るようになる。

(人間関係・社会性)

大人や他児とのあそびを通し、「楽しい」「もっと一緒にあそびたい」等の気持ちが育ち、人と関わることを受け入れたり、楽しんだり、困ったときに人を頼ったりする力が身に付く。また、他者から必要とされ、認められ、受け入れられる経験を重ねながら、自己肯定感が高まり、対人関係におけるコミュニケーションが豊かになる。

氏名	性別	生年月日	生活年齢	備考
	男	令和2年6月3日	4:9	
	男	令和2年6月9日	4:9	
	男	令和2年8月12日	4:7	
	男	令和2年9月5日	4:6	
	男	令和2年11月8日	4:4	
	男	令和2年11月15日	4:4	
	男	令和3年1月14日	4:3	
	男	令和3年2月7日	4:2	
	男	令和3年3月6日	4:1	

きりん組

担当：山田保育士・大中保育士・上甲児童指導員

1. 目指す子どもの姿

- くるみ園での活動を通して、コミュニケーション意欲を高め、自分の思いを表現する気持ちや相手を思いやる気持ちを育む。また、活動の中で大人を頼りながら、成功体験を重ねることで、自己肯定感を高め、自分で挑戦する気持ちを育む。
- 保護者と情報を共有し、今後の見通しや将来のイメージについて話し合いながら、次のステージへと繋げる支援を行う。

(健康・生活) 子ども達に分かりやすい環境作りを行い、活動準備を自ら行えるようになる。

また、大人や友達と協力して衣服の着脱やトイレの自立、大人のお手伝いが出来るようになる。

(運動・感覚) 粗大運動遊びを通して、基礎体力を高める。また、身体の動かし方やボディイメージを高める。道具を使った遊びや製作活動では、手先の巧緻性を高め、道具を目的的に使えるようになる。

(認知・行動) 分かりやすい環境を設定することで、指示や状況を理解し、落ち着いて行動できるようになる。また、遊びの中で大小や長短等、様々な概念理解を図ることで、頼まれたものを持って来る等、自分で分かって行動できるようになる。

(言語・コミュニケーション) 大人や友達との関わり遊びを通じて、自分の意思表示や要求が伝わる経験を重ね、人との関わりを楽しめるようになる。また、個々の発達に合った方法で自分の気持ちを伝えられるようになる。

(人間関係・社会) 集団活動の中で、大人や友達と気持ちを共有することで、他者と関わる楽しさを知り、自ら関わろうとしたり、模倣したりする気持ちが高まる。また、他者理解を深め、相手に合わせられるようになる。

氏名	性別	生年月日	CA	備考
	女	R1.5.16	5:10	
	男	R1.5.21	5:10	
	男	R1.6.24	5:09	
	男	R1.7.11	5:08	
	女	R1.11.5	5:04	
	女	R1.11.17	5:04	
	女	R2.1.13	5:02	
	男	R2.8.18	4:07	
	男	R3.3.5	4:01	

運動ペンギングループ

担当：山田保育士、中山保育士

○目指す子どもの姿

運動遊びを通して、身体を動かす楽しさに触れ、意欲的に活動に挑戦する気持ちを引き出す。また、大人と一緒に取り組む中で、「できなかったことができた」という経験を増やし、自己肯定感を育むと共に、大人と遊ぶ楽しさを感じ、自ら大人を頼るようになる。

粗大運動遊びを通して全身の筋緊張が高まり、体感の安定や身体の柔軟性を高める。それにより、日常生活動作がスムーズに行えるようになる。また、感触遊びを通して、様々な感触や感覚に触れ、受け入れられる触感覚が増え、触感覚受容が進む。

（健康・生活）

運動遊びを通して基礎体力を高め、健康的な体作りを行い、毎日の園生活を楽しく過ごせるようになる。また、粗大運動遊びを通して、運動機能等の身体的発達を促し、食事の際の道具の使用や体の柔軟性を高め、着脱の際の動きがスムーズになる。

（運動・感覚）

感覚運動遊びを通して踏ん張る、またぐ、押す、叩く、ひねる等の動きを経験し、楽しみながら体の上手な動かし方を知る。

（認知・行動）

箱倒しやプットイン等の目的的运动遊びを通して、簡単な目的を理解して大人と繰り返し遊ぶことができるようになる。

（言語・コミュニケーション）

シーツブランコやスキンシップ遊びなど大人との関わり遊びの中で、大人と遊ぶことの楽しさを知り、「やって」や「もう一回」等、各々の発達に応じた方法で要求できるようになる。

（人間関係・社会性）

大人との関わり遊びを通して、大人と遊ぶ楽しさを感じ、繰り返し遊ぶようになる。また、好きな遊びが増え、遊びの幅が広がる。

○カリキュラム

曜日	月	火	木	金
カリキュラム	○プレイルーム ・一本橋はしご渡り等のサーキット ・揺れ遊具を使用した遊び	○ふれあい遊び ・シーツ遊び ・大人とのふれあい遊び	○感覚運動遊び ・粘土遊び ・新聞紙遊び等、様々な感覚で楽しむ遊びを行う。	○ホールにて運動遊び ・サーキットやスクーターボードを使った遊び等、広い空間を利用して遊ぶ。

名 前	性 別	C : A
	男	4 : 9
	男	4 : 9
	女	4 : 1
	男	3 : 9
	男	3 : 8

遊戯イルカ

担当 古川保育士・上甲児童指導員・石丸児童指導員

目指す子どもの姿

一人一人のあそびを充実させることで、他者と一緒にあそぶこと、他者と関わることを楽しいと感じられるようになる。その中で、発信意欲を高め、各々に合ったコミュニケーション手段を獲得する。また、感覚運動あそびを通し、上手な身体の動かし方や、動きや気持ちをコントロールする力が身に付く。

(健康・生活)

生活に繋がるような遊びを通して、実生活においても意欲的に取り組めることが増えたり、家庭での遊びの充実したりする。また年中行事等、季節に応じた遊びを楽しむ。

(運動・感覚)

運動あそびを通して、運動機能を高め、身体を上手に使うことが出来るようになる。また、様々な身体の動かし方を知ることで、生活場面で一人でできることが増える。

(認知・行動)

分かりやすい環境作りや言葉掛けを心掛けることで、子ども自身があそびの意図や目的などが理解でき、主体的に遊ぶことができる。

(言語・コミュニケーション)

子どもの要求が引き出せるような遊びを用意することで、自らが発信しようとする気持ちを育む。また、その中で、個々に合わせたコミュニケーション手段を見つけていく。

(人間関係・社会性)

大人が媒介となることで、ふさわしい他者との関わり方を知る。また、他者との関わりの中で、少しずつ自己をコントロールする力が身に付き、我慢する、折り合いをつける、譲るといったことができるようになる。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	感覚運動・簡単な目的あそび	サーキット・散歩・園庭等	ホール
火	感覚運動あそび・園外活動	揺れ・ボールプール等	プレイルーム
木	感触あそび・簡単なごっこあそび	ふれあい遊び・粘土等	うさぎ
金	微細運動・音楽あそび	製作・リズム	うさぎ

メンバー

年齢 令和7年4月2日現在

氏名	性別	CA
	男	5:8
	男	4:9
	男	4:8
	男	4:7
	女	4:6
	男	4:3
	男	4:1
	男	3:11
	男	3:8

時間	内容
13:20	あつまり パネルシアター、手遊び、歌等
13:30	カリキュラムによるあそび
14:00	片付け 絵本
14:10	あつまり あいさつ

遊戯 アシカグループ

担当：大中保育士・高野保育士・美濃保育士

目指す子どもの姿

運動遊びやスキンシップ遊びを通して、人との関わりを楽しむきっかけを見つけ、コミュニケーションに繋げる。また、大人を頼ったり、楽しさを共感する経験を積み重ね、自然な発声や遊びへの関心が高まり、遊びに適応ができ、遊びの幅が広がる。

(健康・生活)

毎日元気に登園し活動を楽しむ中で、健康な身体を作り自分から挑戦しようとする場面が増える。また、絵本やイラストを用いた視覚的な手立てを示すことで、基本的な生活スキルを身に付けることができるようになる。

(運動・感覚)

感覚運動遊びを通して、踏ん張る、またぐ、かがむ等の様々な身体の使い方が上手になる。また、道具を使った遊びを通して、巧緻性が高まる。感触受容については個々に関係性を作りながら少しずつ進めていく。

(認知・行動)

始点と終点が分かり易い設定を用意することで、目的や操作を自分で理解し主体的に遊びに参加することが出来る。また、繰り返し遊びこむことが出来る遊びを個々に見つけ、集中力が身につく。

(言語・コミュニケーション)

遊びの中で大人に手伝ってもらえる場面を作ることで、大人と頼る、人と遊ぶ楽しさを体験する。また、信頼関係を構築していく中で、子どもからの発信意欲を増やしていく。

(人間関係・社会性)

リズム遊びやスキンシップ遊びを通して、人と合わせて動くことを身に付けることで、自己コントロールができるようになる。また、大人やお友だちからの関わりを受け入れることができる場面が増える。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	目的のある遊び	相手や物の動きに合わせる運動遊び	きりん
火	感覚あそび	粘土等の遊び 道具を使ったあそび	うさぎ
木	運動遊び 園庭遊び・園外遊び	サーキット・散歩・園庭遊び	ホール／園庭・園外
金	感覚運動遊び	サーキット・揺れ遊び等	プレイルーム

メンバー 令和7年4月現在

氏名	性別	CA
	女	5:4
	男	4:8
	女	4:6
	男	4:4
	男	4:1
	男	3:6
	男	3:9
	男	3:2
	男	2:11

時間	内容
13:20	あつまり 歌、手遊び等
13:30	カリキュラムによるあそび
14:10	あつまり

遊戯アザラシグループ

担当：畑本保育士・石田保育士

目指す子どもの姿

設定遊びの中でお友だちと一緒に遊ぶことが増える。また、大人が見本を示すことで他者との関わり方を知り、様々なコミュニケーション手段が身に付く。

(健康・生活)

感覚統合あそびを取り入れることで、ボディイメージを獲得する。それにより、着替えがスムーズに行える、リュックを一人で背負う、食具を使って食事が出来るといったことに繋がっていく。

(運動・感覚)

楽しみながら運動遊びに取り組むことで、スムーズな身体の使い方ができるようになり、相手と動きを合わせられるようになり、様々な活動に挑戦しようとする気持ち等が育つ。

また、製作活動を通して、様々なイメージした物を作り上げながら象徴機能を養う。

(認知・行動)

リズム遊びを通して、動きをコントロールしたり、相手に合わせられるようになる。集まりやパネルシアターを楽しむ中で、名称理解や概念理解へと繋がる。

(言語・コミュニケーション)

絵本や手遊び歌を通して、声を出すことが楽しくなる。活動の中で、友だちと一緒に取り組んだり、あつまりに参加することで、情動のコントロールや、相手に合わせる力が育つ。

(人間関係・社会性)

生活に即したごっこ遊びや園外活動を通して、社会的なルールやマナーを身に付ける。友だちと協力する、競うといった活動から、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	ルールのある遊び	ルールや役割のあるあそび	りす
火	表現・目的あそび	人や物に合わせる活動・リズム遊び	りす/園庭・園外
木	感覚運動遊び	サーキット・揺れ遊び等	プレイルーム
金	手先を使った遊び	概念理解が広がるあそび・製作	りす

氏名	性別	CA
	女	5:10
	女	5:2
	男	4:7
	男	4:4
	男	4:1
	男	3:5
	男	3:3

メンバー 年齢：令和6年4月2日現在

時間	内容
13:20	あつまり ごあいさつ・呼名タッチ 今月の歌
13:30	カリキュラムによるあそび
14:00	片付け 絵本、シアター
14:10	あつまり 今日の振り返り

言語クジラ

担当 山西保育士・大西保育士

目指す子どもの姿

大人が媒介となりながら、あそびの中で、子ども同士で誘い合ったり、自分の思いを伝えあう経験を通し、集団で遊ぶことの楽しさを知り、「子ども主体のあそび」が広がっていく。また、他者の思いを理解する力が身に付くことで、共感したり我慢したりすることができ、楽しく遊べたという経験を重ねていく。

園外活動を通して、マナーやルールの理解が日常生活でも活かされることで、地域との関わりを深めていく。

(健康・生活)

遊びだけではなく絵本等から、衣食住に意識が向けられるようになり、実践することで、健やかな生活に繋がられる。

(運動・感覚)

運動遊びの中に、動きをコントロールする要素や、他者を一緒に取り組む活動を取り入れることで、人や物に合わせた動きができるようになる。また、巧緻性の運動機能を高め、道具の使用がスムーズになる。

(認知・行動)

みたてやつもり遊び、ゲーム遊びなどの素材をみんなで作り、それらを遊びに活用するといった連続性のある遊びに取り組む。一つの遊びをするにあたり、いくつかの段階を設けることで、次への意欲を育んだり、期待を持って取り組んだりができるようになる。

(言語・コミュニケーション)

絵本を通して大人やお友だちと一緒に簡単なやりとりのある言葉や掛け合いを楽しむ。また、大人が媒介となったり、他児をモデルにしたりすることで、コミュニケーションとしての言葉が増える。また、友達同士で遊びに誘いあったりすることが出来るようになる。

(人間関係・社会性)

園外活動を通して、公共でのマナーやルール、振る舞い方を知り、家庭生活でも活かされるようになる。また、手掛かりを用意しておくことで、ごっこ遊びのイメージが広がり、お友だちと一緒に遊ぶ面白さに気付くことができる。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	ルール・ゲームあそび	ルールや役割のあるあそび 概念理解が広がるあそび	こじか
火	感覚運動あそび 園外活動	人や物に合わせる活動 散歩や買い物等	こじか
木	みたて・つもりあそび	ごっこあそび・製作	こじか
金	表現・目的あそび	言語あそび・リトミック ダンス・楽器あそび	こじか

メンバー 令和7年 4月2日現在

氏名	性別	CA
	男	5:10
	男	5:9
	女	5:4
	女	3:11
	女	3:10
	男	3:6
	男	3:4

時間	内容
13:20	あつまり パネルシアター、手遊び、歌等
13:30	カリキュラムによるあそび
14:10	あつまり あいさつ